▶▶▶ 川都町

通潤橋周辺整備事業



通潤橋を核とした賑わい創出

分類

観光振興

〈SDGs〉関連するゴール





総事業費

543,249千円 寄附目標額 285,125千円

計画期間

2021年4月1日~2026年3月31日

数値目標

●交流人口の増加

初年度…………110,000人 2年目………121,000人 3年目………133,100人 4年目………146,410人

通潤橋を核とした賑わい創出事業

国の重要文化財である通潤橋は、平成28年熊本地震の被害により 多量の漏水が発生しました。追い打ちをかけるように平成30年には 豪雨災害に見舞われ、石垣の一部が崩落しました。その後、懸命の復旧 作業が行われ、令和2年7月に4年ぶりの放水が再開されました。

一方で、九州中央道の整備は着々と推進され平成30年12月に山都中島西ICが開通し、令和5年度には矢部IC(仮称)の開通を控えています。町では、令和元年度に高速道路の開通を見据え"山の都"の実現を目指すために取組むべきビジョンを示した「山都町グランドデザイン」を策定し、町の将来像を描きました。その一つとして通潤橋周辺の整備に取り組むこととしました。

度重なる被害から復旧した通潤橋そして町の発展の起爆剤ともなる 高速道路の開通、それらの好機を最大限に活かし、持続可能な町づく りを行っていきます。







るとかまないと

通潤橋周辺の景観を楽しみながらゆっくりと滞在できる憩いの空間の提供と町民や来訪者が多目的に利用できる交流広場の整備や散策ルートの整備など行うことで、施設全体の交流機能の強化を図ります。



山都町 八朔祭の大造り物